

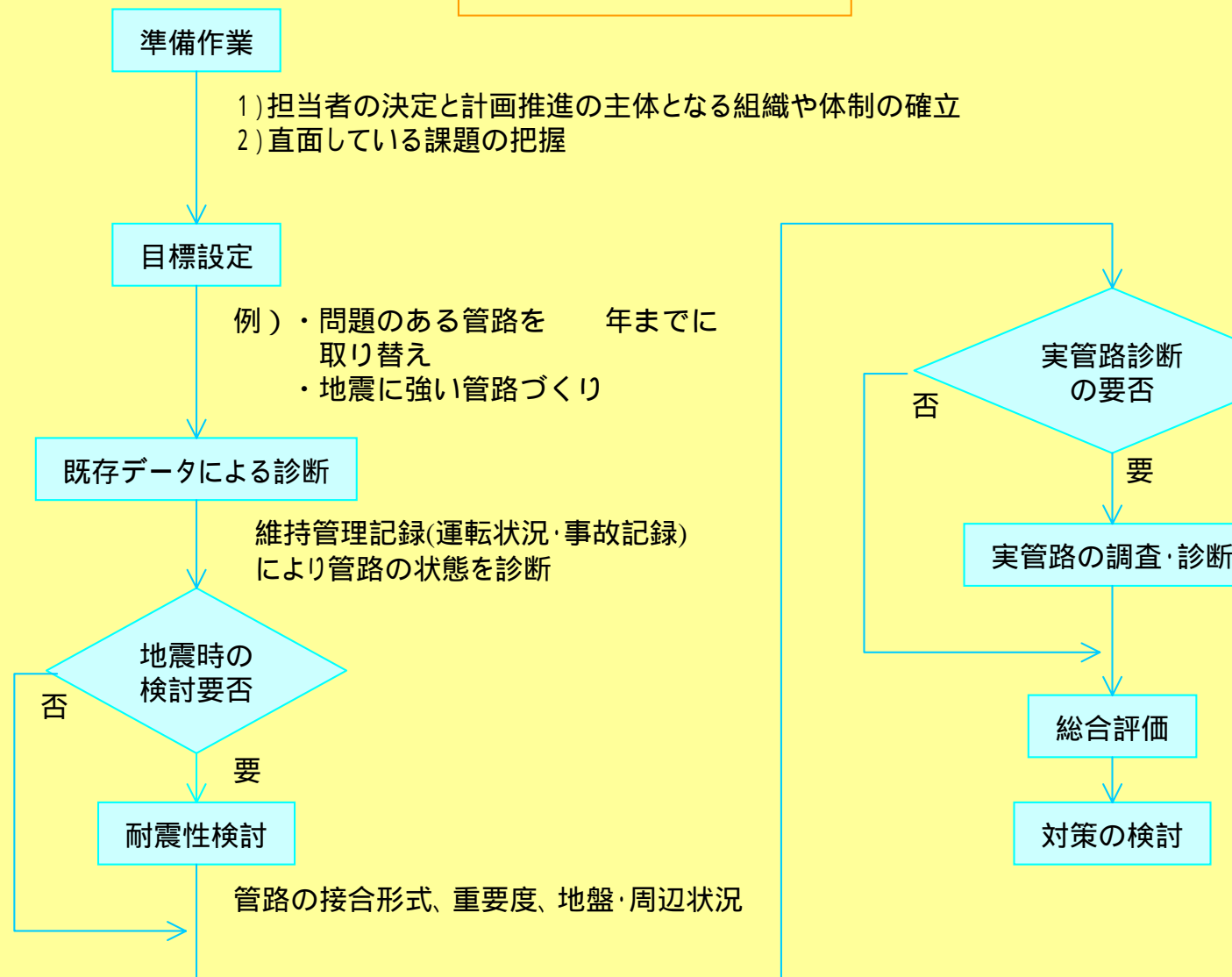
既設圧送管路は大丈夫ですか？

圧送管路といえども、維持管理されていないと事故が発生する事が考えられます。腐食に関して言えば、内面の硫化水素発生による腐食と外面の埋設環境による腐食には注意を要します。硫化水素問題では当研究会で対策を提案していますが、管路も本格的な維持管理の時代に入り管路の状況を把握する上で調査・診断が重要になります。

次のような場合には、早急に圧送管路の診断及び更新に着手する必要があります。

- 1) 圧送管路で、すでに機能障害が発生している場合
- 2) 供用を開始してから40年以上が経過している場合
- 3) 事故の予防保全が特に必要な主要管路の場合
- 4) 圧送管路の更新の優先順位を設定する場合
- 5) 地震防災対策強化地域内にあって、地震対策の検討が必要な場合

管路調査・診断の手順



実管路の調査事例

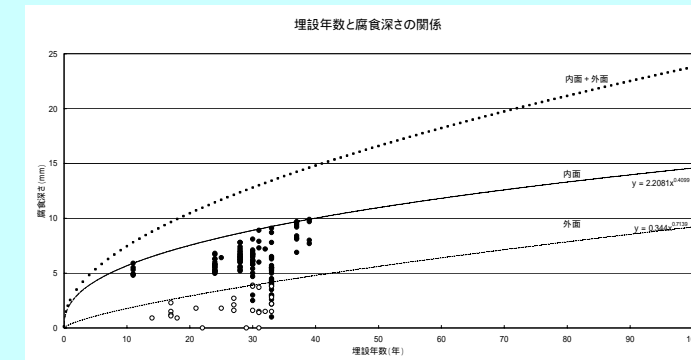
- ・土壌腐食性調査
- ・電食調査
- ・内視鏡等による管内観察
- ・塗装試験
- ・ライニング試験
- ・腐食深さ測定
- ・管厚測定
- ・通水断面積測定
- ・胴付き間隔測定
- ・材質試験
- ・水質分析
- ・流量測定
- ・ボルト・ナット調査



超音波厚さ計による管厚測定



スケールチェッカーによる通水断面積測定



実管路の診断事例

調査結果をもとにした寿命予測

下水道圧送管路研究会 維持管理ワーキンググループ

〒103-8310
 東京都中央区日本橋室町3-1-3
 株式会社クボタ内
 TEL 03-3245-3096 FAX03-3245-3186
 URL <http://www.assouken.gr.jp>

<参加企業>
 (株)クボタ
 (株)栗本鉄工所
 日本鑄鉄管(株)
 (株)管総研
 ピーエスティ(株)